

◎基本情報

事務事業名	水域環境改善・浄化対策事業		担当部署	市民環境部 環境局 環境政策課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	EM活性液培養装置貸与実施要綱・水質汚濁防止法	
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業期間	開始	昭和 51 年度
政策(中項目)	3	身近に自然を体感できるまち なんと		終期	未定
(小項目)		河川・海岸			
施策	4	自然環境に配慮した水辺空間の整備			
基本事業	2	水辺環境の保全と再生			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市全域の河川や水路等の水質						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	生活雑排水等で汚濁が進んでいる河川や水路の水質調査を実施するとともに、水質改善の方法を検討する。また、身近な水路において、EMを活用した水質浄化に取り組んでいく。						
事業計画	29年度に何を計画していたか	前年度からの取り組みを継続するとともに、EM活性液について市民の認知度向上、EMの普及のためEM培養装置の新規貸与について、未設置の地域への働きかけを継続して行っている。しかし、未だ市内全域には達しておらず、鳴門市全域の河川における水質改善を目指し、EMIについての周知・促進を図る。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位
		EM培養装置貸与団体地区数	8	9	10	11	12	箇所

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	城見橋・木津神橋付近の公共用水域で毎月水質調査を実施、また市内各所における年1回の市内水質総合調査を実施するとともに、各自治振興会等にEM培養装置の設置を働きかけた。未設置地区の新規設置はなかったが、黒崎地区について機器を更新した。また市民団体等とともに新池川の水辺環境改善事業に取り組んだ。						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	EM培養装置貸与団体地区数	8	8	10	11	12	箇所
	2	EM資材費	1,038	951	1,250	1,400	1,500	千円
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	EM培養装置貸与団体地区数		8	8	-	-	-	箇所
	目標達成率(実績/目標)			88.9	-	-	-	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり			事業全体の進捗状況		計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	0	3,030	3,030
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	3,030	3,030
		決算額	0	0	0	0	1,881	1,881
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費
		0.1	0.0		723		2,604	

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	2,098	1,881	3,018	3,018	3,018
	うち一般財源	998	1,881	2,018	3,018	3,018
	人件費	713	723	723	723	723
	総事業費	2,811	2,604	3,741	3,741	3,741

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		城見橋・木津神橋付近の公共用水域における毎月の水質調査、また市内各所で年1回実施する市内水質総合調査において、概ね水質の悪化は認められなかった。 身近な河川や水路の水質把握のための調査を実施するとともに、市民団体との協働によりEM活性液を活用した河川の水質改善に取り組んだ。
	効率性	B:概ね効率的だった		
②成果に対する評価	指標名	EM培養装置貸与団体地区数		EM培養装置の新規貸与はできなかったが、1地区にて機器を更新することができた。また、貸与団体地区においては継続的にEM活性液製造に取り組んだ。
	目標	9	箇所	
	実績	8	箇所	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		城見橋・木津神橋付近の公共用水域における毎月の水質調査、また市内各所で年1回実施する市内水質総合調査において、概ね水質の悪化は認められなかったほか、貸与団体地区は継続的にEM活性液製造に取り組んだ。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	EM普及のため、継続してEM培養装置の新規貸与について、未設置の地域に対して働きかけを行っているが、未だ市内全域には達していない。このことから全域設置を目指して今後も周知と促進を図っていく。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	前年度の取り組みを継続し、市全域の水質改善を目指す。			
	H31年度	前年度の取り組みを継続し、市全域の水質改善を目指す。			